

今月のトピック

政治

- ◆組閣及び選挙に向けた動き
- ◆北マケドニア共和国におけるブルガリア系マケドニア人への暴行事件

経済

- ◆閣僚会議による長期電力開発プランの承認
- ◆ブルガリアにおける天然ガスの最新状況

※月報は、ブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

政治

◆組閣及び選挙に向けた動き

- ▶1月3日、ラデフ大統領は、第二党（変革党）が指定した首相候補（ニコライ・デンコフ氏）に組閣を委任した。1月6日、変革党が提案する組閣に当たっての政策優先事項に関する国民議会宣言案が反対多数で否決されたことを受け、1月9日、デンコフ氏は、組閣権をラデフ大統領に返上した。
- ▶1月16日、ラデフ大統領は、第三党以下への組閣委任に際し、ブルガリア社会党（BSP：第五党）に組閣権を引き渡した。1月24日、BSPは組閣権を返上した。
- ▶1月24日、ブルガリア大統領府は、2月3日に国民議会を解散し、4月2日に国民議会選挙を実施する旨の大統領令を発出する予定である旨発表した。

◆北マケドニア共和国におけるブルガリア系マケドニア人への暴力事件

- ▶1月19日深夜、北マケドニア共和国オフリドで、ブルガリア文化センター「ボリス三世」事務局を務めるブルガリア系マケドニア人ペンディコフ氏が殴打等され重傷となった。同氏は、治療のため、ブルガリア政府専用機でブルガリア国内軍事大学病院に搬送された。1月22日、同氏をミルコフ・ブルガリア外務大臣及びオスマニ北マケドニア共和国外務大臣が見舞った。
- ▶1月20日、ブルガリア外務省は、駐ソフィア北マケドニア共和国大使を外務省に召喚し、ペトロヴァ副大臣から抗議書を伝達した。また、1月23日、ブルガリア外務省は、駐スコピエ・ブルガリア大使を対応協議のために一時帰国させた。
- ▶1月30日、ブルガリア内相と北マケドニア内相はスコピエ市内で会合し、北マケドニア内相は、2月4日にスコピエで予定されるゴツェ・デルチェフ（オスマン・トルコ帝国下で内部マケドニア革命組織の革命家としてイリンデン蜂起を指導した人物）の生誕記念式典の際のセキュリティ措置を強化し、同様の事案が再発しないよう対応する旨述べた。ブルガリア内相は、ペンディコフ氏の事案が客観的に、かつ、徹底的に調査されるものと確信したとし、事案

の再発防止への期待を表明した。なお、ブルガリアに一時帰国していた駐スコピエ・ブルガリア大使は、ブルガリア側代表団の一員として当該会合に出席しており、その後引き続きスコピエに残る形で北マケドニアに帰任した。

経 済

◆閣僚会議による長期電力開発プランの承認

▶1月13日、ブルガリア閣僚会議は今後30年間にわたる長期電力開発プランを承認した。今後、このプランが国会審議にかけられ、正式決定する流れとなる。なお、本開発プランの実現には460億ユーロ程度の費用が掛かる見込みである。

(1)ブルガリアは今後も電力生産ならびに輸出において地域でイニシアチブを取り続ける。それを前提として、今回の長期電力開発プランを策定している。

(2)火力発電においては、2030年までブルガリア国内で採掘された石炭を使用した火力発電を継続する。その後2038年までに石炭使用の火力発電を徐々に削減し、段階的に廃止することを想定している。

(3)原子力発電では、4基の原子炉を新たに建設する予定である。4基のうち2基はコズロデュイ原子力発電所の敷地内に、それ以外の2基はベレネ原子力発電所（以前建設予定であったが未完成のまま建設頓挫）の敷地内に建設される予定である。

(4)火力・原子力発電に加え、太陽光発電や風力発電、水力発電などの再生可能エネルギーの開発にも重点を置く計画である。また、供給不安定な天然ガスの代替燃料として、水素を利用したエネルギー開発を進める。

(5)現行の送電網を近代化させ、近隣諸国への送電能力を確保、拡充させていく。

◆ブルガリアにおける天然ガスの最新状況

▶1月3日、ブルガリア国営ガス会社 Bulgargaz とトルコ国営エネルギー会社 Botas は、今後13年間にわたってブルガリアがトルコのLNG基地にアクセスすることを認める協定に調印した。これにより、ブルガリア側のニーズに合わせて、年間最大13億立方メートルのLNGガスの再ガス化および貯蔵容量が提供されることとなる。

▶1月3日の当地BTA通信で報じられたフリストフ暫定政権エネルギー大臣の談話によると、2023年使用分のブルガリアの天然ガスは既に確保されたとのことである。詳細な内訳は明らかになっていないが、ブルガリアの年間天然ガス消費量は約35億 m^3 、そのうちギリシャ＝ブルガリア間を結ぶガスパイプライン・インターコネクターからの供給が10億 m^3 、上記記載のトルコからの調達が13億 m^3 を占める形になる。

▶ブルガリアのエネルギー・水規制委員会が定めたブルガリアの1月の天然ガス価格は179.33BGN/MWhとなり、前月12月（146.09BGN/MWh）比で+22.8%の増加となった。しかしながら、天然ガス調達の安定の影響により2月の価格は1月比で-24.5%となる135.38BGN/MWhでブルガリアガス社からエネルギー・水規制委員会へ申請されている。

指標	
GDP 成長率(Q3 暫定値・年率換算)	+3.32%

消費者物価指数(12月)	+0.9%(前月比) +16.9%(前年同月比)
失業率(12月)	4.6%(前月比+0.6%)
公的債務残高/GDP(含む国及び地方)	21.3%(Q3時点)

※ブルガリアのマクロ経済指標は、ブルガリア国立銀行HPよりご覧になれます
(<https://www.bnb.bg/Statistics/StMacroeconomicIndicators/index.htm?toLang=EN>)。